

ほんの少しの優しさ

(原文)

藤岡 真菜 (14 歳)

東京都

晃華学園中学校

優しさは、世界を平和にするための、1 番最初的手段だと思います。誰かを気遣い、誰かのために行動する。これだけじゃ、世界は平和にならないかもしれません。だけど、世界中の人が、1 日 1 回でも誰かのために行動することができたら、どうなるでしょうか？世界中の人全員が幸せな気持ちになれる。さすがにそこまではまだはいかないかもしれません。しかし、誰かの優しい行動によって救われる人が増えるのは確かだと思います。

私の学校では、毎月募金をして貧しく学校に通えない子供達を援助しています。毎月 1 人たった 60 円ですが、今まで募金することを躊躇していました。しかし、もし援助受ける対象がご飯を食べることができないほど貧しい家庭だとしたらと、考えた時、私がたった 60 円募金するだけで、その家庭を助けられるかもしれない。自分たちにとっては、ほんの少しの優しさかもしれませんが、その優しさを必要としている人たちがいるのではないかと、思えるようになりました。

ただ、誰かに道を譲るだけでも、席を譲るだけでも、1 円を寄付するだけでもいい。その小さな優しさが集まれば大きな優しさになる。それを沢山の人がやることによって世界は変えられると思います。

学校の授業でアフリカの国と交流し、SDGs のつくる責任つかう責任について考える機会がありました。今、世界では 9 人に 1 人が飢えに苦しんでいます。しかし、年間 621 万トンもの食べ物、また、世界では毎年 13 億トン、およそ作られたものの 3 分の 1 もの食べ物を無駄にしています。そのうち日本の家庭から出る量が 282 万トンもあります。食べなさそうな食べ物を少しでも寄付するだけでも構いません。みんな少しずつ寄付するだけで飢えに苦しむ沢山の人を救うことができます。

優しさがあふれる社会にするためには、まず行動することだと思います。誰かがやってくれるだろうという考えで何もせずにいては、何も始まりません。さっき述べたように 1 円を寄付するだけで、いらない食べ物を寄付するだけで誰かを救うことができる。自分が何か行動することによって、それを見ている誰かが、また、その優しさによって助けられた誰かが、今度は誰かに対して 優しい行動をするはずで。とてつもなく小さな優しさでもそれが人から人へ伝わる。すると、小さな優しさが大きな優しさになっていき、優しさがあふれる社会になり、誰かが何か苦しむ世界ではなく、誰もが笑顔で過ごせる平和で楽しい世界になると思います。

優しさがあふれる社会にするにはもう1つしなければならないことがあると思います。それは誰かの優しさをありがたく受け入れることです。私は、ご年配の方にバスで席を譲った時に、「私はお年寄りではない。」と断られてしまいました。もしかしたらその方は本当に若かったのかもしれませんが。しかし、断るのではなく優しく受け入れれば誰も嫌な思いをせずに済むと思います。

また、優しい行動ができない人もいると思います。それは、ただただ心が冷たいのではなく、優しい行動をするのが恥ずかしいとってしまうからだと思います。それは、優しい行動をする人をこの社会でよく見かけないから、また、優しい行動を受け入れない人がいるからでしょう。そんな人たちを冷たい目で見るとは思わないで、優しい目で見守ってあげれば、いつか優しい行動が恥ずかしいとは思わないはずです。

最後に、優しさとは、誰もが暮らしやすい世界をつくるための行動だと思います。優しさがあふれる社会にするにはまず、自分から行動してみませんか？ どんなに些細なことでも、くだらないことでも構いません。優しい行動がいつか1つにまとまり、優しさがあふれる社会が出来上がるはずです。